表 2. 鹿児島県各茶産地における各種薬剤のチャノミドリヒメヨコバイに対する効果

供試薬剤（成分名）	希釈倍数（倍）	発育ｽﾃｰｼﾞ	室内：接種48時間後補正死亡率（%）						ほ場：防除率(7日後　%)			
			頴娃	枕崎	知覧	日置	曽於	姶良	知覧	日置	曽於	姶良
アドマイヤー水和剤（イミダクロプリド）	1000	成虫	96.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	71.4	36.4	-
モスピランＳＬ液剤（アセタミプリド）	2000	成虫	85.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	50.6	72.7	-
スタークル顆粒水溶剤（ジノテフラン）	2000	成虫	46.7	94.1	92.9	100.0	75.4	100.0	14.3	0.0	45.5	-
ジェイエース水溶剤（アセフェート）	1000	成虫	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0	85.7	36.4	-
カスケード乳剤（フルフェノクスロン）	4000	成虫	0.0	2.8	20.0	0.9	0.0	0.0	0.0	13.0	18.2	-
コテツフロアブル（クロルフェナピル）	2000	成虫	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	53.6	67.5	90.9	-
ハチハチ乳剤（トルフェンピラド）	1000	成虫	-	-	-	-	80.7	-	15.5	66.2	90.9	-
ウララＤＦ（フロニカミド）	1000	成虫	-	-	-	-	-	-	47.6	70.1	90.9	-

注1) 秋芽萌芽期の発生量は，鹿児島「少」、知覧「中」、志布志「少」であり、溝辺は極小発生のため防除率は算出しなかった。
2) イミダクロプリドの室内検定は、アドマイヤー顆粒水和剤（5000倍）を供試
3) 枕崎と頴娃はほ場試験は未実施
4) 「－」は検定なしを示す